

日本子ども社会学会 第24回大会 プログラム

2017年7月1日（土）・7月2日（日）

於 東京学芸大学

共催 国立大学法人東京学芸大学

小川未明 人と童話

上笙一郎児童文学研究

上笙一郎著 加藤理・尾崎るみ編 A5判／予価2500円

二〇一五年に急逝した児童文学研究者・上笙一郎の代表的な研究である小川未明研究の論考五編を掲載。巻末に、解説「上笙一郎という〈宇宙〉」（加藤理）、「上笙一郎年譜」「上笙一郎著作目録」（尾崎るみ編）を収める。日本の児童文学研究に偉大な足跡を遺した上笙一郎の人物と業績を顕彰する。

◎収録論考 1「未明伝」2「戦後の小川未明の思想」3「未明童話の本質―『赤い蠟燭と人魚』の研究」4「牛女」にみる北国の女性―小川未明と新潟県」5「二つの児童文学について―芸術的児童文学と大衆的児童文学」

「上氏が遺した膨大な研究をどのように継承し、どのように発展させていくのか模索する上で、上氏の研究の始まりのひと滴である小川未明研究と向き合うことは、上氏の研究の本質を探る上で重要な意味を持つものと思われる。上氏の小川未明研究は、児童文学研究という狭い枠に収まり切らない広さと深さを備えている。研究手法としては、文学研究の他に民俗学、歴史学、経済学などを援用としている。広大な森に聳える一本の木として小川未明をとらえ、未明という木が根を生やす土壌と覆っていた空気にも目配りしながら、小川未明という対象に迫るうとしていく。」（刊行にあたってより）

初山滋奇人童画家

上笙一郎著 A5判函入／本文216頁／■3500円

◎絵本『もず』で知られる童画家・初山滋の生涯と、その美の世界。著者が敬愛する初山滋評伝の決定版。上笙一郎の最後の著作。

日本児童文学研究史

上笙一郎著 A5判函入／口絵8頁＋792頁／■14000円

◎江戸期から現代までの児童文学研究のあゆみを、文化・おもちゃ・人権思想など多角的に論じた長年の集大成。

日本児童文学学会四十年史

上笙一郎著 A5判函入／400頁／■7000円

◎一九六二年に創立した日本児童文学学会の創立メンバーであり、学会の動向、内実をつぶさに見てきた著者による学会四十年の貴重な証言。

「児童文化」の誕生と展開

大正自由教育時代の子どもの生活と文化 別冊複製2「小鳥の家」「赤い実」

加藤理著 菊村上製函入／864頁／■12000円

◎本書は近世後期から、明治、大正、昭和初期と、埋もれていた当時の資料を発掘し、壮大なスケールで多岐にわたって詳細に論証、近代の「児童文化」の理念と実態を明らかにした画期的な労作。別冊に、幻の雑誌といわれる「小鳥の家」後藤隆編輯発行、「赤い実」金野細雨編輯発行を収録。第39回日本児童文学学会賞受賞。

ポスト三・一一の子どもと文化

いのち・伝承・レジリエンス

加藤理、鵜野祐介編著 A5判並製／400頁／■4000円

◎「ポスト3・11」の喫緊の課題として子どもと文化を考え、「センス・オブ・ワンダー」「アニマシオン」「共生・共死」「うたと語り」「伝承」といったコンセプトにもとづき、あらたな児童文化論を提言する。エッセイ、論考21編を収録。

叢書 児童文化の歴史 全3巻

第1巻 収録文献25点

児童文化の原像と芸術教育

加藤理編 A5判並製／280頁／■3500円

◎大正期から昭和12年まで、誕生期・黎明期の児童文化の歩みを明らかにする。

第2巻 収録文献35点

児童文化と学校外教育の戦中戦後

加藤理、川勝泰介、浅岡靖央編 A5判並製／584頁／■5700円

◎戦中戦後二十年間を対象に、激動の時代における児童文化の変遷を探る。

第3巻 収録文献22点

児童文化と子ども文化

加藤理、鵜野祐介、遠藤純編 A5判並製／464頁／■4800円＊品切れ

◎六〇年代から現代までの児童文化を辿る。

若松賤子

尾崎るみ著 A5判函入／口絵4頁＋440頁／■7000円

◎近代の黎明期、明治女学校と『女学雑誌』によってキリスト教的なフェミニズムを主張した、若松賤子の本格評伝。第31回日本児童文学学会奨励賞受賞。

日本子ども社会学会 第24回大会 プログラム

1. 期日

2017年7月1日(土)・2日(日)

2. 会場

東京学芸大学 小金井キャンパス

3. 日程

【前日 6月30日(金)】

15:00 ～ 16:50 各種委員会

17:00 ～ 19:00 理事会(芸術・スポーツ研究棟2号館2階第3会議室)

【1日目 7月1日(土)】

9:00 ～ 受付(S棟1階S105講義室)

9:30 ～ 12:00 研究発表Ⅰ(S棟1～3階各講義室)

12:00 ～ 12:50 総会(S棟2階S203講義室)(学会賞授賞式を含む)

12:50 ～ 13:40 昼食

新理事会(S棟3階S301講義室)

13:40 ～ 15:20 研究発表Ⅱ(S棟1～3階各講義室)

15:30 ～ 17:30 テーマセッション(S棟2階S203講義室・4階S410講義室)

17:50 ～ 19:50 懇親会(第1むさしのホール)

【2日目 7月2日(日)】

9:00 ～ 受付(S棟1階S105講義室)

9:30 ～ 12:00 研究発表Ⅲ(S棟1～3階各講義室)

12:00 ～ 13:20 昼食

新評議会(S棟3階S302講義室)

新各種委員会

13:20 ～ 16:20 公開シンポジウム(S棟4階S410講義室)

16:30 ～ 18:30 ラウンドテーブル(S棟1～3階各講義室)

4. 大会参加費

一般会員：4,000円 大学院生(会員)：3,000円 臨時(当日)会員：4,000円

5. 懇親会

7月1日(土) 17:50～19:50 東京学芸大学 第1むさしのホール

会費 一般会員：4,000円 大学院生(会員)：3,000円

6. 発表時間

個人発表：発表20分・質疑応答5分

共同発表：発表40分・質疑応答10分

7. 発表取り消し

発表の取り消し、および発表日時の変更は原則として認めていません。

発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。

8. 当日配布資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は、50部以上ご用意ください。

不足の場合、大会本部でのコピーはできません。

9. 発表に際しての注意

発表の際、プロジェクターは各室に備え付けてあります。パソコンについては、大会校でも用意はしておりますが、ご自身のものを使用していただくことも可能です。その際、接続ケーブルは以下のように、教室により対応型式が異なりますのでご注意ください。

- ・ HDMI のみに対応：S103・S203・S307・S410
- ・ HDMI・VGA の両方に対応：S301・S302・S303

なお、Mac や Surface を使用される場合は、HDMI に接続する Mini DisplayPort 用コネクターは大会校で用意しております。

10. クローク

7月1日（土）は18:00まで、2日（日）は19:00まで、S棟1階S106講義室に用意します。なお、貴重品はお預かりできませんので、各自でお持ちください。

11. 会員控室

S棟1階S102講義室に、お茶・お菓子などを用意しております。どうぞご利用ください。抜刷・資料交換コーナーもこちらに設けます。

12. 書籍販売

S棟2階S201講義室・S202講義室にて書籍販売を行います。

13. 昼食

1日（土）は、図書館横ノート・カフェ（10:00～18:30）、生協1階購買コーナー（11:30～13:30）が営業しています。食堂は営業しておりません。

2日（日）は、食堂、ノート・カフェ、生協1階購買コーナー、いずれも営業しておりません。会場から最も近いコンビニや飲食店に行く場合も、歩いて片道10分以上かかります。大変恐縮ですが、各自お弁当などをご準備いただきますようお願いいたします。

14. 大会本部

S棟1階S107講義室に設けています。

15. 大会実行委員会連絡先

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 教育学部総合教育科学系教育学講座 腰越滋研究室 気付

日本子ども社会学会 第24回大会実行委員会

E-mail kyousha@u-gakugei.ac.jp（腰越滋）

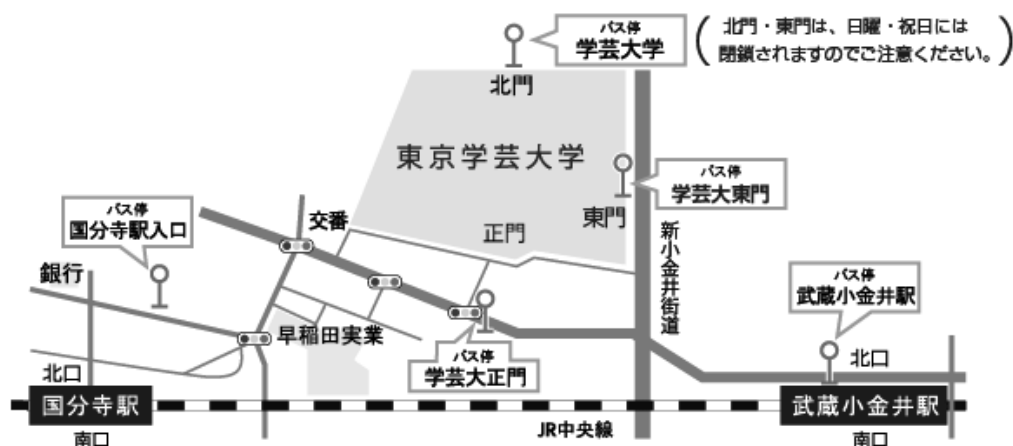
※要旨集録の配布について

要旨集録は昨年度の大会と同様、日本子ども社会学会ホームページから pdf ファイルをダウンロードできるようにする予定です。公開は6月23日（金）頃を予定しております。

学会当日は必要な方にのみ冊子の要旨集録を配布する予定ですので、数に限りがございます。ぜひ pdf ファイルをダウンロードしてご利用くださいますようお願い申し上げます。

東京学芸大学へのアクセス

最寄り駅からのアクセス



●JR 武蔵小金井駅・北口より

【京王バス】

〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車、徒歩 3 分

●JR 国分寺駅より

【徒歩】約 20 分 (JR 国分寺駅北口→早稲田実業学校→連雀通り／小金井市保健センター前)

※関係者以外の自動車での入構をご遠慮いただいておりますので、お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

空港からのアクセス

●羽田空港から

【東京モノレール】「羽田空港駅」から「浜松町駅」まで約 22 分

→【JR 山手線 (内回り)】「浜松町駅」から「東京駅」まで約 5 分

→【JR 中央線】「東京駅」から「武蔵小金井駅」まで約 40 分

→【京王バス】〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車、徒歩 3 分

●成田空港から

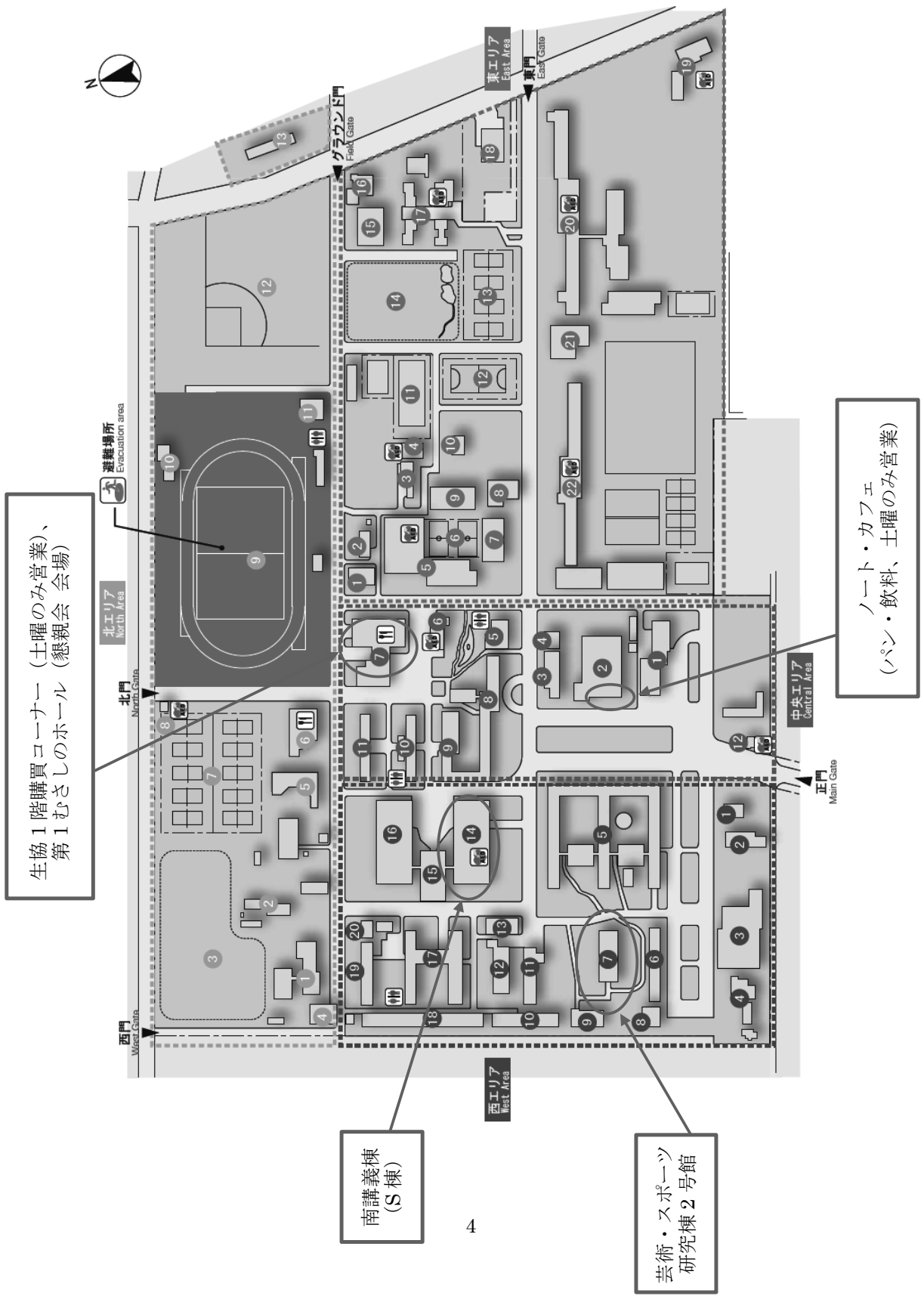
【JR 特急成田エクスプレス】成田空港から東京駅まで約 62 分

→【JR 中央線】「東京駅」から「武蔵小金井駅」まで約 40 分

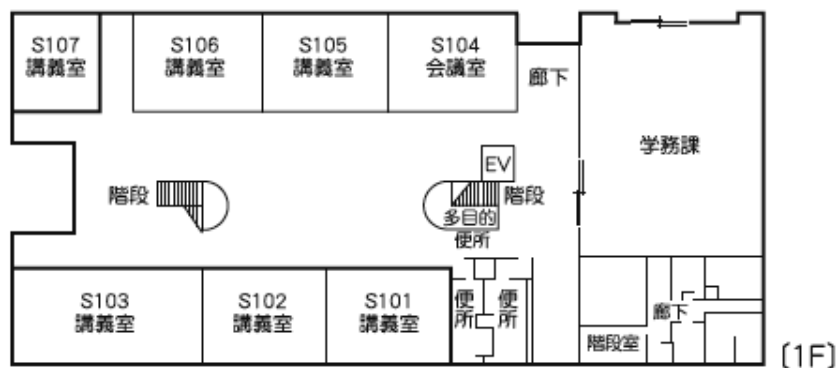
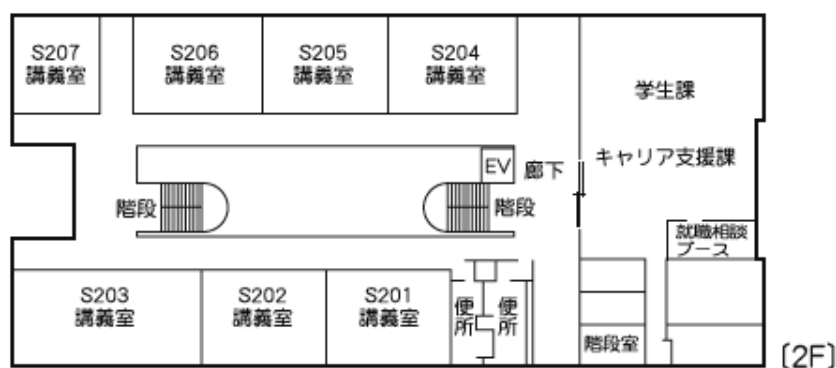
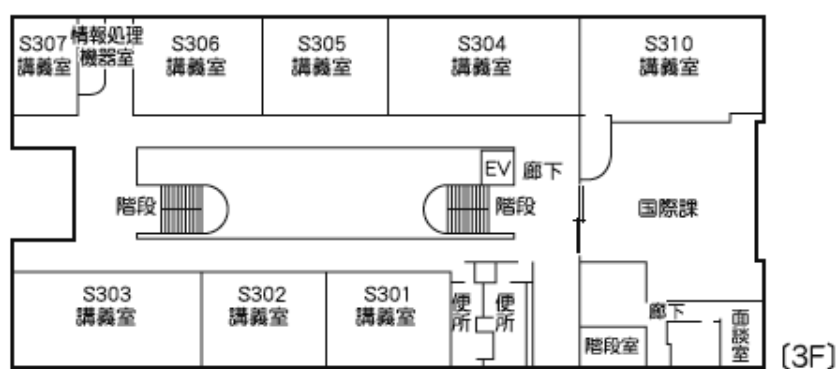
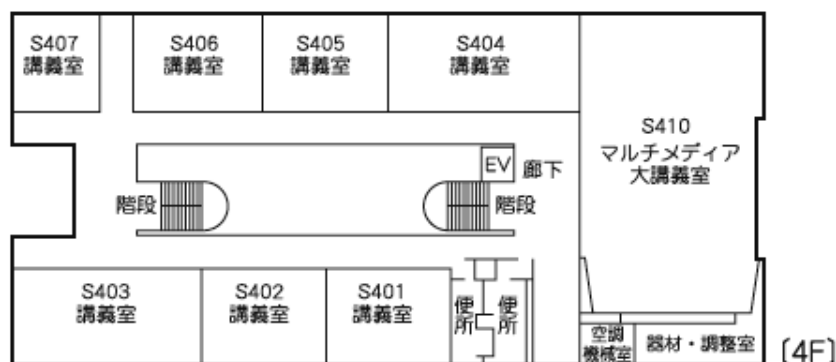
→【京王バス】〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車、徒歩 3 分

<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>より

東京学芸大学 キャンパスマップ



南講義棟 (S棟) 平面図



研究発表 I

2017 年 7 月 1 日 (土) 9 時 30 分～12 時 00 分
S 棟 1 階 S103 講義室

I-1 【多様な子ども①：子どもと居場所】

司会 伊藤 秀樹 (東京学芸大学)

9 時 30 分～9 時 55 分

沖縄における産官学連携の子どもの居場所づくり
——大学と地域をつなぐ学生の地域支援活動の仕組みに焦点をあてて
嘉納 英明 (名桜大学)

9 時 55 分～10 時 20 分

発達障害児の居場所と支援者の関わり
——余暇・文化活動の場としての放課後・休日
上代 繁 (八街市立川上小学校)

10 時 20 分～10 時 45 分

教育支援センター (適応指導教室) の歴史とその役割に関する考察
熊倉 崇裕 (武庫川女子大学大学院)

10 時 45 分～11 時 10 分

山田潤の教育と労働に関する問題意識
——『ハマータウンの野郎ども』『学校に行かない子と親の会 (大阪)』を中心に
田中 佑弥 (武庫川女子大学)

11 時 10 分～11 時 35 分

フリースクールから社会への移行をめぐる困難
藤村 晃成 (広島大学大学院)

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表 I

2017 年 7 月 1 日 (土) 9 時 30 分～12 時 00 分
S 棟 2 階 S203 講義室

I - 2 【 保育 】

司会 請川 滋大 (日本女子大学)

9 時 30 分～9 時 55 分

マンガにみる保育者の専門性に関する研究

○加藤 望 (愛知淑徳大学)

上田 敏丈 (名古屋市立大学)

9 時 55 分～10 時 20 分

新設保育園における同僚性構築プロセス

——公立保育所民営化問題を背景とした事例を通して

○石井 美和 (東北文教大学短期大学部)

奥山 優佳 (東北文教大学短期大学部)

10 時 20 分～10 時 45 分

保育者の職の継続

——育児休業における職場復帰プログラム

中井 雅子 (十文字学園女子大学)

10 時 45 分～11 時 10 分

小学校教諭は保育における「見守る」ことをどのようにとらえるのか？

——活動のねらいに着目して

○上田 敏丈 (名古屋市立大学)

吉田 貴子 (花園大学)

中田 周作 (中国学園大学)

肥田 武 (名古屋大学)

中坪 史典 (広島大学)

11 時 10 分～11 時 35 分

自己尊重観を育むデンマークの保育

大橋 喜美子 (神戸女子大学)

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表 I

2017 年 7 月 1 日 (土) 9 時 30 分～12 時 00 分
S 棟 3 階 S301 講義室

I - 3 【 教育実践 】

司会 南本 長穂 (関西学院大学 (非常勤))

9 時 30 分～9 時 55 分

メディア・リテラシー教育実践における学習者の振り返りシートの質的分析

○高橋 敦志 (東京学芸大学大学院／立教新座中学校・高等学校)

和田 正人 (東京学芸大学)

9 時 55 分～10 時 20 分

教員養成大学生が児童生徒にブルーライトの健康被害を教えるために用いる情報源

和田 正人 (東京学芸大学)

10 時 20 分～10 時 45 分

コーチングによる授業の実践について

——ピア・コーチングを中心に

鳥羽 きよ子 (しぎさん看護専門学校)

10 時 45 分～11 時 10 分

国際理解教育としての海外スクーリングの成果と課題

——体系的な研修プログラムの構築に向けて

○佐藤 佳子 (敬愛大学)

山本 陽子 (敬愛大学)

田中 未央 (敬愛大学)

11 時 10 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表 I

2017 年 7 月 1 日 (土) 9 時 30 分～12 時 00 分
S 棟 3 階 S303 講義室

I - 4 【子どもと学校】

司会 片山 悠樹 (愛知教育大学)

9 時 30 分～9 時 55 分

児童における学習に関する社会的環境と学習態度との関連性
高木 誠一 (国際武道大学)

9 時 55 分～10 時 20 分

美術系大学の学生の子ども時代
喜始 照宣 (一橋大学)

10 時 20 分～10 時 45 分

中 1 ギャップはなぜ生まれるか
——小中間の 2 時点データの分析から
豊永 耕平 (東京大学大学院)

10 時 45 分～11 時 10 分

多元化する生徒の人間関係
梅田 崇広 (広島大学大学院)

11 時 10 分～11 時 35 分

科目選択と進路指導
——高校総合学科におけるフィールドワークをもとに
布川 由利 (東京大学大学院)

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表Ⅱ

2017 年 7 月 1 日（土） 13 時 40 分～15 時 20 分
S 棟 1 階 S103 講義室

Ⅱ－1 【多様な子ども②：子ども支援】

司会 田中 理絵（山口大学）

13 時 40 分～14 時 05 分

1930 年代の児童虐待問題に浮上する「子ども」の複数性
——焦点の定まらない虐待被害者としての児童
高橋 靖幸（新潟県立大学）

14 時 05 分～14 時 30 分

大正・昭和初期の保育施設における家庭支援
——兵庫県下の保育施設に着目して
和田 真由美（姫路大学）

14 時 30 分～14 時 55 分

インドにおける「学校化」と「多様な子ども期」
針塚 瑞樹（別府大学）

14 時 55 分～15 時 20 分

総括討論

研究発表Ⅱ

2017年7月1日(土) 13時40分～15時20分
S棟 2階 S203 講義室

Ⅱ－2 【子どもと家庭】

司会 中坪 史典(広島大学)

13時40分～14時05分

子育て支援施設における母親グループの自主保育
——母親たちがエンパワメントされる子育て支援とは

○加藤 直子(日本女子大学大学院)
請川 滋大(日本女子大学)

14時05分～14時30分

「ママ友」に対する母親たちの捉え方と関係が構築されるプロセス

○木田 千晶(愛知教育大学大学院)
鈴木 裕子(愛知教育大学)

14時30分～14時55分

自閉症スペクトラム障害をもつ子どもの家族手記のナラティブ分析
二宮 祐子(東京女子体育大学)

14時55分～15時20分

総括討論

研究発表Ⅱ

2017 年 7 月 1 日（土） 13 時 40 分～15 時 20 分
S 棟 3 階 S303 講義室

Ⅱ－3 【子どもと ICT】

司会 和田 正人（東京学芸大学）

13 時 40 分～14 時 05 分

スマートフォン及びタブレットゲームが乳幼児の生活や遊びに与える影響
湯地 宏樹（鳴門教育大学）

14 時 05 分～14 時 30 分

中国のインターネットでの女性の身体イメージにおけるウェイボーの影響
韓 晴（東京学芸大学大学院）

14 時 30 分～15 時 20 分

総括討論

【テーマ】

子どもとファンタジー

【話題提供者】

麻生 武 (奈良女子大学)

「ファンタジーとは何か? : ファンタジーの生まれる場所」

加藤 理 (文教大学)

「子どもの二つの世界とファンタジー」

目黒 強 (神戸大学・研究交流委員会委員)

「明治期の読書論における「空想」の排除と包摂—お伽噺論を中心として—」

【ファシリテーター】

磯崎 三喜年 (国際基督教大学・研究交流委員会委員)

【企画趣旨】

本学会では、発足以来のキーワードである「子どもらしさ」に関する研究の成果が蓄積されているが、現在のところそれぞれの専門領域内でのアプローチに留まり、個々の専門・学術領域を横断したアプローチはほとんど見受けられないように思われる。

そこで、本テーマセッションでは、本学会の特色である様々な学問領域からのアプローチが期待できる「子どもとファンタジー」というテーマを設定し、「子どもらしさ」の多様性とその豊饒性を追究したいと考えた。

具体的には、心理学・児童文化・児童文学を専門に子ども研究に取り組んでいる方々にご登壇いただき、「子どもとファンタジー」というテーマについて、それぞれの立場から研究成果や今後の展望を報告していただく予定である。

こうした専門・学術領域を横断したセッションを通して、既存の枠組みに囚われない子ども社会学会独自のアプローチを探究するとともに、異なる学術領域間の交流促進がいつそう深まることが期待される。

【テーマ】

子どもと社会的養護

【話題提供者】

原田 旬哉(園田学園女子大学)

「児童養護施設職員の視点から捉える社会的養護」

西本 佳代(香川大学)

「教育学の視点から捉える社会的養護」

藤間 公太(国立社会保障・人口問題研究所)

「家族社会学の視点から捉える社会的養護」

【ファシリテーター】

坪井 瞳(東京成徳大学・研究交流委員会委員)

山口 季音(至誠館大学・研究交流委員会委員)

【企画趣旨】

近年、「児童虐待」や「貧困」をはじめとする子どもの養育環境の多様化・格差化が社会問題として顕在化した。それにともない、様々なメディアにおいて児童養護施設を中心とする社会的養護の場やそこで生活を営む子どもの様子が紹介され、その存在に目が向けられるようになってきている。また、研究においても、これまで社会的養護を研究対象として中心的に扱ってきた児童福祉領域からの関心はもちろん、社会学・教育学・心理学などの領域からの関心の高まりも見られるようになってきている。

しかし、各領域の視点に目配りしつつ社会的養護を捉える研究は未だ少ない。こうした現状は、社会的養護にあらかじめ包含されている問題系、つまりは前述の多領域の視点から社会的養護を統一的に捉え、議論を再構成する必要性があることを示しているのではないだろうか。

以上の問題関心により、本テーマセッションでは、児童福祉に関する近年の制度的動向を踏まえつつ、児童養護施設職員の視点から社会的養護の現状について報告を行う。そして、そこで提示された課題を教育学および家族社会学の視点から議論する。それらの議論を通じて、社会的養護というフィルターを通した上でのそれぞれの領域の知見が、既存の知見にどのように寄与することができるのか、その可能性を探りたい。

研究発表Ⅲ

2017年7月2日（日） 9時30分～12時00分
S棟 1階 S103 講義室

Ⅲ－1 【多様な子ども③：子ども研究の系譜】

司会 小針 誠（青山学院大学）

9時30分～9時55分

「子どもの変容」から「子どもの多様性」へ？
——2000年代以降の子どもへのまなざしの変化と子ども研究の視角
元森 絵里子（明治学院大学）

9時55分～10時20分

幼児教育研究におけるジェンダーの視座に関する考察
藤田 由美子（福岡大学）

10時20分～10時45分

帰国子女教育研究の系譜と現代の課題
安達 美帆子（T-GAL／元放送大学大学院）

10時45分～11時10分

解釈的アプローチによる子ども研究の「足跡」
池田 隆英（岡山県立大学）

11時10分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅲ

2017年7月2日（日） 9時30分～12時00分
S棟 2階 S203 講義室

Ⅲ－2 【子どもと自然・文化】

司会 中田 周作（中国学園大学）

9時30分～9時55分

野外教育の実践報告「森の探検隊」で子どもたちから教えられたこと
福島 真吾（スポーツメディア株式会社）

9時55分～10時20分

子どもを怖がらせることに関する一考察
——なまはげ行事から
金澤 妙子（大東文化大学）

10時20分～10時45分

中学生と美術文化財との接触体験
——京都の文化財を守り伝える活動に携わる方々から学ぶ
由良 知彦（京都市立桂中学校）

10時45分～11時10分

雑誌『平凡』にみる読者像の変容と純潔教育に関する一考察
田中 卓也（共栄大学）

11時10分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅲ

2017年7月2日（日） 9時30分～12時00分
S棟 3階 S301 講義室

Ⅲ－3 【子ども・若者における問題】

司会 白松 賢（愛媛大学）

9時30分～9時55分

高校生の読書

清水 あかね（鎌倉女学院高等学校）

9時55分～10時20分

いじめ防止についての一考察

一之瀬 敦幾（常葉大学）

10時20分～10時45分

10代の出産と生活条件

梅原 佐知子（東京都立神代高等学校）

10時45分～11時10分

スペインにおける「治療共同体運動」の歴史と実践
——依存症に対する予防・改善教育の試みから

古賀 正義（中央大学）

11時10分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅲ

2017年7月2日（日） 9時30分～12時00分
S棟 3階 S303 講義室

Ⅲ－4 【子どもと政策】

司会 富江 英俊（関西学院大学）

9時30分～9時55分

中国の就学前における知的能力の育成
——農村部の幼児園教材の変遷を中心に
盧 中潔（お茶の水女子大学大学院）

9時55分～10時20分

義務教育諸学校・コミュニティ・スクールによる地域教育の在り方
春日 清孝（明治学院大学（非常勤））

10時20分～10時45分

子育て支援・家庭教育支援施策にみる子育てグループ活動の位置づけについて
——子育てネットワーク実践を中心に
相戸 晴子（宮崎国際大学）

10時45分～11時35分

子ども子育て支援制度の課題と可能性（3）
——学習指導要領にみる学校と教師の「子ども観・像」の再定義との対比から
○西本 裕輝（琉球大学）
○望月 重信（明治学院大学（名誉教授））
○馬居 政幸（静岡大学（名誉教授）／馬居教育調査研究所）

11時35分～12時00分

総括討論

公開シンポジウム
子どもは民主主義を学んでいるのか

登壇者： 細辻 恵子（甲南女子大学）
 広田 照幸（日本大学）
 額賀 美紗子（東京大学）
指定討論者： 浅野 智彦（東京学芸大学）
司 会： 金子 真理子（東京学芸大学）

選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられた 2016 年夏の参議院選挙を振り返ると、若年層の投票率は低調な傾向にあるなかで、18 歳の投票率が過半数に至ったことは注目に値する。学校教育が何らかの形で 18 歳の投票率を押し上げた可能性が推測されるが、そのメカニズムとは何か。彼ら・彼女たちは、そもそも、大人として投票したのか、子どもとして投票したのか、あるいは生徒として投票したのだろうか。そしてどのような選択（大人として、あるいは、子どもならではの）をしたのか。そこには、子どもが主権者になるとはどういうことかという、未知の問題と可能性があるように思われる。

若者の政治参加が問われる一方で、より根本的な疑問も湧いてくる。子どもはどこで民主主義を学んでいるのか、あるいは、子ども社会は民主主義とどんな関係になっているのだろうかといった疑問である。上野千鶴子は、「自分の運命を他人任せにしない、ということが民主主義の核心にある」と述べた上で、「民主主義は選挙や国会の中だけにあるのではない。ものごとを取り決める過程のすべてに、民主主義という道具は関係する。それならその道具に習熟するには、子どものときから、家庭や学校や地域のすべての場所で、民主主義を学んで身につける必要があるのではないか」と問いかけた。同時に上野が口にしたのは、「いまのあなたの家庭や学校に、民主主義を学ぶ機会はあるのだろうか」という心配である（上野千鶴子 2016「民主主義という道具を使いこなす」岩波新書編集部編『18 歳からの民主主義』）。

このような心配に応えることは簡単ではない。一部のシティズンシップ教育等の試みを除いて、子どもが民主主義を学ぶ機会を積極的に組織化しようとする大人の意識は、戦後 70 年を経て希薄化してきたようにみえる。そのようななかで行われる諸活動は、両義的な意味を持ちやすく、子どもが民主主義を学ぶ機会にもなれば、逆になりにくいこともあるだろう。一方で、子どもは意図せざるところで、たとえば学校・家庭・地域社会における人間関係、友人の言動、様々なメディアを通して、民主主義を学ぶこともあるかもしれない。

このように考えると、子どもが民主主義を学ぶ機会は、子どもの日常生活にかかわる様々な制度、組織、カリキュラム、実践、相互行為のなかで、関係論的に構築されていくものだと考えられる。だとすれば、子どもはいつどのように民主主義を学んでいるのかと同時に、子どもによって学ばれる民主主義とはいったいどのようなものなのかという、問いも生まれてくるだろう。

本シンポジウムでは、民主主義社会の形成に向けて、子どもが民主主義を学ぶ機会、プロセス、および、子どもが学んでいる民主主義はどのようなものを、様々な場面で反省的に捉え直すことから始めたい。細辻恵子氏からは子どもや家庭の場と民主主義とが含ませる課題や論点について、広田照幸氏からは現状分析を踏まえて学校ができることについて、額賀美紗子氏からは人間形成の国際比較の視点から論じていただく。浅野智彦氏にはメディアからの視点を含ませつつ、三者の報告内容を絡めて討論していただく予定である。

ラウンドテーブルⅠ

2017年7月2日（日） 16時30分～18時30分
S棟 1階 S103 講義室

申込者氏名・所属

臼杵 百合子（日本保健医療大学）

テーマ

人間教育・心の教育・性教育Ⅲ

1) コーディネーター

山田 富秋（松山大学）

2) 司会者

臼杵 百合子（日本保健医療大学）

3) 提案・討論者

三角 正明（日本保健医療大学）

増野 章子（日本保健医療大学）

高木 茂子（(株)世論時報社）

宮崎 悦子（同仁会病院）

七浦 美知子（元児童館館長）

都筑 陽子（サイコセラピー学会事務局）

他アンケート等協力者

内容

一昨年、昨年に続き性教育を「人間教育・心の教育・性教育Ⅲ」として教育現場、医療現場等からのアンケート報告、事例研究報告等を行い討議します。

申込者氏名・所属

元森 絵里子（明治学院大学）

テーマ

「子どものため」にどう挑むか
——子ども社会研究の射程を広げる

1) コーディネーター

元森 絵里子（明治学院大学）

2) 司会者

元森 絵里子（明治学院大学）

3) 問題提起者（討論者は置かず、フロアで議論する）

南出 和余（桃山学院大学）

高橋 靖幸（新潟県立大学）

大嶋 尚史（日本工業大学）

ほか

内容

子ども研究において、従来の教育的子ども観に対抗するものとして、「子ども中心」「子どものため」といった点がいささか規範的に強調されてきた。しかし、そのようなスローガン自体が「子どものため」ではない（大人の願望の投影に過ぎない）といった指摘も繰り返されている。この隘路に抜け出るには、「子どものため」というレトリックを文化的・歴史的に相対化し、それが実際にどのような場面でどのように機能しているのかや、レトリックとは別の水準で「子どものため」が実現している様を見るような研究視角が必要であろう。人類学と社会学を中心とする学際的なメンバーによる実際の研究に根差した問題提起を元に、フロアと共に子ども社会研究の射程を広げる方法論や視角を議論したい。

ラウンドテーブルⅢ

2017 年 7 月 2 日（日） 16 時 30 分～18 時 30 分
S 棟 3 階 S302 講義室

申込者氏名・所属

西本 裕輝（琉球大学）

テーマ

新学習指導要領と子ども子育て支援制度の課題と可能性
——人口減少時代における公教育制度再構築の視座を求めて

1) コーディネーター

西本 裕輝（琉球大学）

望月 重信（明治学院大学（名誉教授））

馬居 政幸（静岡大学（名誉教授）／馬居教育調査研究所）

2) 司会者

西本 裕輝（琉球大学）

3) 提案・討論者

島田 桂吾（静岡大学）

遠藤 宏美（宮崎大学）

角替 弘規（静岡県立大学）

藤田 由美子（福岡大学）

内容

2016 年度末に新学習指導要領が明らかになった。その内容は、2015 年 8 月「論点整理」、2016 年 8 月「審議のまとめ」、12 月中央教育審議会答申と進む改訂作業の過程で展開された論議の考察を重ねることで、日本の公教育の再構築を視野に置く改訂とみなせる。

コーディネーターの西本、望月、馬居は、このような学習指導要領改訂過程と同時並行で、「子ども子育て支援新制度の可能性と課題」をテーマに協働研究を進め、幼児教育の新たな制度化の現場に生じる事象から、広く日本の公教育制度の問題点の開示を試みてきた。

その結果、新学習指導要領と子ども子育て支援制度はともに人口減少時代における日本の公教育制度全体の再編に向かう作業との視座から問い直す必要性を共有することになった。その具体化の第一歩として、次の 4 種の視座からの提案と論議の場として、ラウンドテーブルを実施したい。

①実施主体として自治体行政（教育委員会+福祉部局）の現状と課題（島田）

②人口減少先進地域での小規模義務教育学校の理想と現実（遠藤）

③外国にルーツをもつ子どもたちの学びの今と未来（角替）

④幼児期から問い直す公教育制度に埋め込まれたジェンダーバイアス開示の可能性（藤田）

申込者氏名・所属

田中 卓也（共栄大学）

テーマ

子ども文化・児童文化のあるべき姿と今後の課題
——幼稚園教育要領改訂にむけて

1) コーディネーター

田中 卓也（共栄大学）

2) 司会

田中 卓也（共栄大学）

3) 提案・討論者

小島 千恵子（名古屋短期大学）

橋爪 けい子（浜松学院短期大学部）

藤井 伊津子（吉備国際大学）

和田 真由美（姫路大学）

内容

本研究は、子ども文化・児童文化のあるべき姿と今後の課題について、ラウンドテーブルというかたちで実施するものであり、保育者養成校に携わる 5 名のシンポジスト（登壇者）より、各養成校の実態について述べて頂き、最後に幼稚園教育要領改訂にむけて、子ども文化・児童文化がどうあるべきなのか、について深く考察・検討をこころみたい。

研究領域は保育者養成であり、研究対象は幼児である。

日本子ども社会学会 第24回大会 実行委員会

実行委員長	松田 恵示	東京学芸大学
実行委員	腰越 滋	東京学芸大学
	金子 真理子	東京学芸大学
	倉持 清美	東京学芸大学
	和田 正人	東京学芸大学
	伊藤 秀樹	東京学芸大学

日本子ども社会学会 第24回大会 プログラム

発行日 2017年5月17日
編集 日本子ども社会学会 第24回大会実行委員会
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学 教育学部総合教育科学系教育学講座 腰越滋研究室気付
発行 日本子ども社会学会事務局
〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-6-1 内外出版株式会社内

中央教育研究所は、教育の組織・内容・方法等について、基本的・実証的な調査研究を行うことによって、教育科学の推進、教育現場の発展に寄与することを目的とした研究所です。現在、以下の4つの公益目的事業を中心に活動しています。

1. シンポジウム事業

今日的な教育課題に関するシンポジウム、セミナーを全国各地で展開。
東日本大震災避難児童生徒の支援活動、講演会活動の支援も継続。

2. 教育に関する調査研究事業

小中高を接続する言語教育の在り方研究や教科書のデジタル化研究、人口減少問題と学校教育問題、学校現場の教育調査等のプロジェクトを展開。

3. 教科書研究への助成事業

若手研究者を対象に教科書に関する研究を公募、奨励金を交付して助成。

4. 教育賞の論文審査事業

東書教育賞を共催し、教育実践論文の審査と論文集の作成を担当。

〒114-0004

東京都北区堀船 2-17-1

Tel. 03-5390-7488

Fax. 03-5390-7489

ホームページ: <http://www.chu-ken.jp/>Eメール: chu-ken@nifty.com

子どもの学びの新たな展開に向けて

新刊
社会を創る市民の教育——協働によるシティズンシップ教育の実践

大友秀明・桐谷正信編

A5判・並製・二七二頁・二五〇〇円

グローバリゼーションとカリキュラム改革

海外の研究者が見た「総合的な学習の時間」

ラー・マクドナルド著

A5判・上製・二〇八頁・二七〇〇円

第2版

協同と表現のワークショップ——学びのための環境のデザイン

茂木一司編集代表

A5判・並製・二八〇頁・二四〇〇円

近刊

学生エリート養成プログラム——中国、日本

北垣郁雄編著

A5判・上製・二八〇頁・三八〇〇円

子どもの「生」と現代社会

子どもの生きられる空間——生・経験・意味生成

高橋勝著

四六判・上製・二七二頁・二四〇〇円

流動する生の自己生成——教育人間学の視界

高橋勝著

四六判・上製・二七二頁・二四〇〇円

本来の「生」の流動を阻害する効率至上の社会環境超克のために。

子ども・若者の自己形成空間——教育人間学の視線から

高橋勝編著

A5判・上製・三二二頁・二七〇〇円

文化変容のなかの子ども——経験・他者・関係性

高橋勝著

四六判・上製・二四〇頁・三〇〇〇円

教育と医療とのはざまに

発達障害支援の社会学——医療化と実践家の解釈

木村祐子著

A5判・上製・二四〇頁・三六〇〇円

発達障害児支援の医療化に伴う新たな問題群の具体的改善のために。

社会生活の基盤「マナー」への理論的アプローチ（各四六判・並製）

マナーと作法の社会学
マナーと作法の人間学

マナーの社会的機能と根源的性格につき新たな理論的展望を開く。

加野芳正編著
二八〇頁・二四〇〇円
矢野智司編著
二六頁・二〇〇〇円

ベネッセの調査・研究活動

ベネッセ教育総合研究所では、子どもたちのよりよい生活や育ちの環境、学習のあり方を追究していくために、子育て・教育のさまざまな側面に焦点をあてて調査・研究を行っています。

■ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究 「子どもの生活と学び」研究プロジェクト(親子パネル調査) 「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016」速報版

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、2014年に全国の小学1年生～高校3年生の子どもとその保護者約2万1千組の調査モニターを対象に、毎年1回以上の定期的な調査(親子パネル調査)を実施する共同研究プロジェクトを発足しました。

本速報版では、その第1回(Wave1)・第2回(Wave2)の追跡調査をもとに、12学年の子ども「学習」の実態と1年間の変化を明らかにしました。今後も毎年、同じ子どもと保護者を調査し、子どもの生活や学習、保護者の子育ての様子など、親子の「成長・発達」とその因果関係を明らかにしていきます。



■ 第6回 学習指導基本調査

本調査は、小学校・中学校・高校における学習指導の実態と教員の意識など、広く学校の実態をとらえることを目的としています。

小学校は1998年、中学校は1997年、高校は2010年から調査を実施しており、経年比較と学校段階間の比較が可能なのが大きな特徴です。

調査結果から、転換期にある学校・教員の姿が浮かび上がっています。



ベネッセ教育総合研究所で実施している各調査結果は、以下のウェブサイトにてご覧いただくか、報告書などのタイトルでご検索ください。 * 調査報告書の販売はしておりません。ご了承ください。

<http://berd.benesse.jp/>

第46回 教育展望セミナー

■大会主題：資質・能力を育成する教育課程の編成と実施

■日程：平成29年8月7日(月)、8日(火)

7日(月) 全体会

教育講演(インタビュー)：益川敏英先生(京都産業大学教授、2008年ノーベル物理学賞受賞)

パネルディスカッション「資質・能力を育成する教育課程の編成と実施をどのように進めるか」

8日(火) 分科会

第一分科会(経営部会)／教科等横断的な視点での教育課程の編成と実施／教育内容と地域教育資源の効果的な組み合わせによる教育課程の編成と実施

第二分科会(小学校部会)／各教科における主体的・対話的で深い学び／道徳科の指導計画と授業改善

第三分科会(中学校部会)／道徳科の指導計画と授業改善／各教科における主体的・対話的で深い学び

■会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)
(JR・地下鉄市ヶ谷駅下車、徒歩3分)

■参加費

2日間：14,400円、1日のみ：9,300円(含資料代)

■お申し込み

ご参加には事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は当研究所まで、開催案内をご請求ください。

月刊「教育展望」

毎月1日発行
A5判, 448円＋税

2017年 特集

6月号 新学習指導要領で教科はどのように変わるか2

5月号 新学習指導要領で教科はどのように変わるか1

4月号 新学習指導要領への対応

3月号 次期学習指導要領答申を読み解く

「教育展望」臨時増刊 セミナー研究討議資料

A5判, 2,381円＋税

No.48 (第45回教育展望セミナー) 2016年7月発行, 124ページ
これからの時代に求められる資質・能力～学校教育の質を問う～

No.47 (第44回教育展望セミナー) 2015年7月発行, 124ページ
グローバル化社会の学校教育Ⅱ～これからの時代に求められる資質・能力～

研究紀要

第97号 アクティブラーニング実践上の課題—主体的・対話的で深い学びの実現をめざして—
(予定) 2017年7月発行, B5判, 104ページ, 972円＋税

第96号 小・中学校における「カリキュラム・マネジメント」の現状と今後の課題
2016年7月発行, B5判, 106ページ, 972円＋税

第95号 小・中学校における「アクティブラーニング」の現状と今後の課題
2015年7月発行, B5判, 122ページ, 972円＋税

第94号 小・中学校の教育課程実施状況の実態と今後の課題
2014年6月発行, B5判, 108ページ, 1,019円＋税

トロル

全国各地で、書籍の出張販売中！

保育・福祉の専門書籍 オンラインショップ

＊一般書店では入手できない本も扱っております＊

保育用品
玩具も！

トロルストア

検索

<http://www.troll-store.com>



トロルストア

【保育・福祉専門書籍/児童書/パペット/世界の楽器】

〒189-0022

東京都東村山市野口町1-11-4

TEL 042-392-5304

FAX 042-392-5305

E-mail: all@troll-ren.jp

AM 11:00～PM 7:00

(定休日/日・祝日)

トロルホームページ

<http://www.troll-ren.net>



子どもと学校の考現学 少子化社会の中の子どもの成長

深谷昌志著 支持率の高い教師・低い教師、はじめの三段階など、豊富なデータに基づく、ありふれた今の子ども
の考察から未来を展望する。 A5上製・2592円

昭和の子ども生活史

深谷昌志著 膨大な歴史資料に基づき、自らの生きた昭和
の子どもの姿を、「子どもの遊び」「受験勉強」等のテ
マで社会問題史的に描き出す。 A5上製・8100円

「子どもらしさ」と「学校」の終焉 生きるための教育をもとめて

深谷昌志著 切れる、学級崩壊、いじめ、不登校、保
健室通い、塾通い等の背後にある子どもたちの心情を数
万人のデータから明らかにする。 四六・2268円

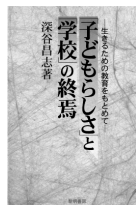
カリキュラム・マネジメント の考え方・進め方

キー・コンピテンシーを育てる学校の教育課程の編成と改善
加藤幸次著 次期学習指導要領最大の柱、「学校の教育課程」
の実践、評価、改善を行う「教育課程経営」について詳述。 A5・2592円

アクティブ・ラーニング の考え方・進め方

キー・コンピテンシーを育てる多様な授業

加藤幸次著 知識を使いこなし、創造する資質・能力を育成する指導法、アク
ティブ・ラーニングについて10の授業モデルを提示し詳述。 A5・2268円



黎明書房

〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-6-27 EBS ビル

＊表示価格は税(8%)込みです。

TEL(052)962-3045・FAX(052)951-9065

<http://www.reimei-shobo.com/>

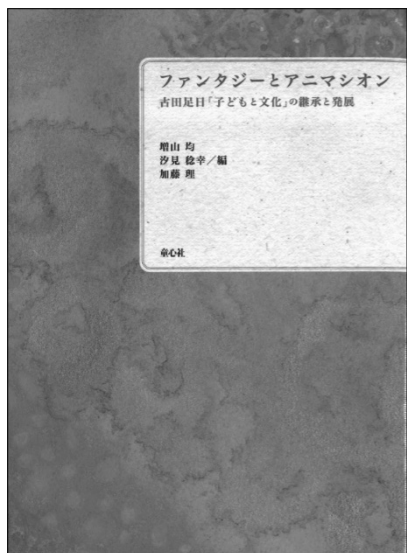
童心社創立60周年記念出版

ファンタジーと

アニメーション

古田足日「子どもと文化」の継承と発展

古田足日の創作活動をはじめとする子どもの文化に関する多面的な活動の中で、評論「子どもと文化」が教育関係者を中心に注目され、高い評価を得ていた。それは、児童文化論や児童文化研究ではなく、子どもの育ちや発達の原理を文化の面から追求し、従来の子どもの文化論とは異なる意味を持つものであった。本書は、この古田論を再評価しながら、その可能性と課題の両面を見据え、これからの「子どもと文化」論を考え導き出すべくその論の継承と発展を考察する。



編集委員： 増山 均 (早稲田大学文学学術院教授) 定価 本体2,950円+税 ●288ページ ●A5変型判 ISBN978-4-494-02051-5
企画・編集 ●子どもの文化研究所

汐見稔幸 (白梅学園大学学長・東京大学名誉教授)

加藤 理 (文教大学教育学部教授)

60 童心社

〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6 TEL.03-5976-4181 FAX.03-5978-1078 <http://www.doshinsha.co.jp>

子どもの文化研究所 〈叢書・文化の伝承と創造〉第1集

『人はなぜ語るのか』

片岡 輝 (詩人・子どもの文化研究所所長・語り手たちの会理事長)

語りに関心を持つ読者とこれからの語り手となる若い人々に贈る楽しく、スリリングな思索と読書へのいざない。語り手たちを駆りたてる物語の魅力。物語を語ることで人が人になった過程を、古今東西の豊富な文献を通して読み解いていく。語りの本質に迫る論考。ぜひ、お求めください。

定価 本体1,800円+税 ●224ページ ●A5判 ISBN978-4-88259-161-0

叢書〈文化の伝承と創造〉刊行

文化は遠い過去から先人たちが受け継ぎ、時代とともに更新・変化を積み重ねながらいま、私たちの前にある。伝承と創造なくして、生きた文化の存続は有り得ない。伝承と創造のせめぎ合いの過程で他の領域や異文化と混淆しながら、相互に影響を受け、与え、そのありようを多彩に変化させていく。

この叢書は、子どもに関わる文化を核に据え、生活に根ざしたあらゆる領域の人間活動を視野に入れて、子どもの成長発達に資する論考・記録・実戦・研究・資料・データ・作品などを、子どもの権利と人格を尊重し、ともに生きる幸せを守りつつ、民主主義と平和主義を貫く志を持つ読者に手渡すことを願って刊行する。

編集・子どもの文化研究所 ●発行・アイ企画 ●発売・生活ジャーナル社

●ご注文は、語り手たちの会事務局または、子どもの文化研究所(03-3951-0151)へ



●放送大学テキスト

好評発売中

現代社会の児童生徒指導

古賀正義・山田哲也・田中理絵
金子真理子 2017年発行 ¥3,100+税

子ども・青年の文化と教育

岩田弘三・谷田川ルミ・岡田佳子・富江英俊
熊田博喜 2017年発行 ¥2,600+税

カリキュラム編成論 [改訂版]

田中博之
2017年発行 ¥3,600+税

教育文化の社会学

稲垣恭子
2017年発行 ¥2,600+税

道德教育の理念と実践

押谷由夫・永田繁雄・新井浅浩・諸富祥彦
西野真由美 2016年発行 ¥2,900+税

カリキュラムと学習過程

浅沼茂・奈須正裕・北村和夫・成田幸夫
久野弘幸 2016年発行 ¥2,700+税

学校と法 [改訂版]

坂田仰・岩橋健定・黒川雅子・山田知代
2016年発行 ¥2,300+税

現代日本の教師

油布佐和子・岩立京子・佐久間亜紀
元兼正浩 2015年発行 ¥2,700+税

幼児教育の指導法

師岡章・佐久間路子・田中浩二
2015年発行 ¥2,700+税

人間発達論特論

住田正樹・田中理絵
2015年発行 ¥3,200+税

教育学入門 - 教育を科学するとは -

岡崎友典・永井聖二・富江英俊・加藤理
2015年発行 ¥2,600+税

乳幼児の保育・教育 [新訂]

岡崎友典・梅沢実・井上清美・押元信幸
芦田川祐子 2015年発行 ¥2,300+税

教育の社会学

近藤博之・岩井八郎・木村涼子・中澤涉
大多和直樹 2015年発行 ¥2,700+税

道德教育の方法

堺正之
2015年発行 ¥2,300+税

家庭教育論

住田正樹・天童睦子・田中理絵
2012年発行 ¥2,400+税

地域社会の教育的再編

岡崎友典・夏秋英房
2012年発行 ¥2,600+税

教育と社会

岩永雅也
2011年発行 ¥2,600+税

現代教育改革論

江原武一・南部広孝・深堀聰子・
服部美奈 2011年発行 ¥2,500+税

コミュニティ教育論

岡崎友典・玉井康之
2010年発行 ¥2,600+税

地域教育の創造と展開

岡崎友典・高島秀樹・夏秋英房
2008年発行 ¥3,000+税

●ご希望の方に「図書目録」をお送りします。詳しくは www.ua-book.or.jp



一般
財団
法人

放送大学教育振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-14-1

TEL 03-3502-2750

FAX 03-3592-2482

教育の基礎と展開

—豊かな保育・教育のつながりをめざして

高野良子・武内清 編著

A5判 200頁 本体2000円

ジェンダー化社会を超えて

—教育・ライフコース・アイデンティティ

望月重信・春日清孝・原史子 著

四六判 234頁 本体2300円

大学生のキャリアとジェンダー

—大学生調査にみるキャリア支援への示唆

谷田川ルミ 著

A5判 196頁 本体2700円

男子問題の時代？

—錯綜するジェンダーと教育のポリティクス

多賀太 著

四六判 240頁 本体2200円

災害と子ども支援

—復興のまちづくりに子ども参加を

安部芳絵 著

四六判 264頁 本体2300円

入門 子供の活動支援と青少年教育ボランティア

田中壮一郎 監修

鈴木真理・馬場祐次朗・松村純子 編

A5判 248頁 本体1500円

子どもの放課後にかかわる人のQ&A 50

—子どもの力になるプレイワーク実践(遊ぶ・暮らす)

プレイワーク研究会 編

A5判 136頁 本体1600円

教師のための教育学シリーズ①①

子どもと教育と社会

教師のための教育学シリーズ編集委員会 監修
腰越滋 編著

A5判 202頁 本体2100円

日本の教育を考える

—現状と展望

望月重信・播本秀史・岡明秀忠 編著

A5判 248頁 本体2500円

育児不安の国際比較

深谷昌志 編

A5判 208頁 本体2000円

未来を拓く子どもの社会教育

上杉孝實・小木美代子 監修

立柳聡・姥貝莊一 編著

A5判 356頁 本体3000円

教育社会とジェンダー

河野銀子・藤田由美子 編著

A5判 200頁 本体2100円

子ども社会シリーズ

A5判 約190頁
本体各2000円

子どもの発達に関わる諸問題を6つの領域から多角的に考察し、「社会で育てる」ことをめざし、現代の“子ども”を読み解く。

住田正樹・武内 清・永井聖二監修

第1巻 子どもと家族

住田 正樹 編

第2巻 幼児教育の世界

永井 聖二 編
神長美津子

第3巻 子どもと学校

武内 清 編

第4巻 子どもと地域社会

住田 正樹 編

第5巻 子どもの「問題」行動

武内 清 編

第6巻 消費社会と子どもの文化

改訂版

永井 聖二・加藤 理 編

子どものワークショップと 体験理解

感性的な視点からの実践研究のアプローチ

笠原広一

新刊

A5判 250頁 定価2,800円

幼児・児童が参加する絵画や映像の表現ワークショップを事例に、関与観察とエピソード記述の方法で、実感に根ざした感性的な視点から体験を捉え、その意味や価値を考察していくワークショップの研究方法を詳しく紹介。ワークショップにかかわり、ワークショップについて「書く」人たちのための一冊。



子ども社会学の現在

いじめ・問題行動・育児不安の構造

住田正樹

A5判 328頁 定価3,800円

社会の急激な変化に伴って子どもの問題行動は多様化し、複雑化している。本書は、「いじめ」をはじめとする子どもの問題行動と、その対応策としての集団活動の有効性を検証し、また子どもの発達にとっての居場所の存在の重要性を明らかにするとともに、親の問題としては育児不安を取り上げて克明に分析する。

新版 現代の社会教育と生涯学習

松田武雄 編著

A5判 272頁 定価2,800円

近年、社会教育・生涯学習の現場では、社会教育行政の危機と言えるような再編成が進行している。現在、私たちが直面している社会的危機において、社会教育・生涯学習はいかに持続可能たり得るのかを考える必要がある。本書では、現代社会との関連で社会教育・生涯学習の今後の在り方について考察し、なお且つ、学生の社会教育主事講習テキスト等にも利用できるよう、社会教育・生涯学習の基礎的理解が得られる構成とした。



ディルタイから教育実践へ

アクティブラーニングの源流

森 邦昭

新刊

A5判 366頁 定価5,200円

移民とドイツ社会をつなぐ教育支援

異文化間教育の視点から

伊藤亜希子

新刊

A5判 274頁 定価4,200円

リトルリーグの社会学

前青年期のサブカルチャー

G.A. ファイン／住田正樹 監訳

A5判 360頁 定価3,800円

子どもたちの「居場所」と対人的世界の現在

住田正樹・南 博文 編

A5判 476頁 定価6,000円

地域社会と教育

子どもの発達と地域社会

住田正樹

A5判 398頁 定価5,700円

ピアパワー (仮題)

P. A. アドラー & P. アドラー／住田正樹 監訳

2017年7月刊行予定



第13回

児童教育実践についての研究助成

まもなく受付開始

2017年7月3日(月)

締切/2017年10月31日(火)

詳細については博報財団ホームページをご覧ください。

www.hakuhofoundation.or.jp/

博報財団

検索

対象となる研究

- 「ことばの教育」に関する研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

助成金額

- 1件につき300万円を限度に助成します

応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者(教授職を除く)
 - 日本の学校・教育委員会に所属する教育実践に携わる方
- ※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です。

助成期間

- 2018年4月1日～2019年3月31日
- 助成期間終了後、研究(代表)者が希望する場合は継続助成の申請をすることができます

【審査委員】(五十音順)*は審査委員長

楠見 孝	京都大学大学院 教授	本郷 一夫	東北大学大学院 教授*
針生 悦子	東京大学大学院 教授	横山 詔一	国立国語研究所 教授
藤森 信	信州大学 教授		

公益財団法人

博報児童教育振興会

HAKUHO FOUNDATION